

宮崎県議会訪問団が日本自動車会館を視察



日 本自動車会議所は11月8日、東京・港区の日本自動車会館で視察に訪れた宮崎県議会の訪問団と高齢ドライバーの事故防止対策について意見交換をした。訪れたのは県議会文教警察企業常任委員会の委員6人と議会議務局など5人の計11人。意見交換の前に、常任委員会の渡辺創委員長が挨拶し、「宮崎県には自動車の生産拠点がないため、メーカーの皆さんと直接、意見交換する機会はありません。しかし、高齢化率が高い県であり、また生活するうえで自動車が不可欠な地域でもあるため、高齢運転者等への事故防止対策の取り組みについて調査に伺

わせていただきました」と話した。

続いて、会館運営委員会事務局を務める当会議所の山岡正博専務理事が自動車産業の現況や会議所の取り組みなどを説明し、「高齢者の交通事故が非常に多いことは、自動車業界としても危惧しています。10月の政府の未来投資会議でも、ペダル踏み間違い時の加速抑制装置が付いたクルマが普及する必要があるとの認識を、安倍総理が示しています。現在、多くの新車にそうした装置は装備されていますが、保有台数7,800万台で見れば圧倒的に少なく、後付け対策が課題です。補助制度を行っている自治体は東京都などごく一部で、本日の意見交換が、宮崎県ならではの施策を考えていただけるヒントになればと思います」と述べた。

続いて、トヨタ自動車渉外広報部の小金井勝彦主幹が、高齢者の事故の実態や日本政府・自動車メーカーの取り組み、最近の動向などを説明した後、意見交換を行った。意見交換終了後、訪問団は日本自動車会館の「くるまプラザ」や自動車図書館などを視察して宮崎への帰途に就いた。

未来の年表 人口減少日本でこれから起きること～日本の未来について



日本自動車会議所は11月6日、東京・港区の日本自動車会館「くるまプラザ会議室」で第263回会員研修会を開催し、人口減少対策総合研究所理事長の河合雅司氏が「未来の年表 人口減少日本でこれから起きること～日本の未来について」と題し講演した。河合氏は今回の講演テーマともなっている『未来の年表』というベストセラーの著者で、元産経新聞論説委員。新聞記者・ジャーナリストとして人口政策や社会保障政策をフィールドの一つとしてきた河合氏は、これからやってくる日本の人口減



河合雅司氏

少社会を予測・展望しながら、その“処方箋”を具体的に示すなどして持論を展開した。参加者は約60名。

東京自動車三十年会記念碑法要営む



東 京・上野の不忍池辨天堂境内にある「東京自動車三十年（みそじ）会記念碑」の法要が11月22日、辨天堂内で厳かに営まれた。記念碑に名前が刻まれている、わが国自動車関連業界の先駆者たちの後裔など約30人が参列。先達の偉功を偲びつつ、「100年に一度」と言われる業界の変革期を前に、それぞれの仕事に対する気持ちを新たにしていた。

同記念碑は、1953年に業界歴30年以上の人たちが結成した東京自動車三十年会の初期会員を顕彰するため、1975年に建立された。自動車メーカー、自動

車販売会社、タクシー会社、自動車関連機械・工具メーカー、自動車整備会社、自動車関連新聞社などの創業者らの名前が刻まれている。

法要は毎年1回、実行委員会事務局の東京都自動車会議所と東京自動車三十年会が共同で開催。記念碑で顕彰されている方々の後裔や、関係企業・団体の役員らも参列する。

この日は読経、焼香のあと、導師を務めた辨天堂主任の角田叡元師が「自動車関連業界は非常に夢のある仕事だと感じています。皆さまがそのような業界でますます発展されるようお祈りします」などと法話。続いて、実行委員長の中川雅治・東京都自動車会議所会長の挨拶文を佐藤明・同会議所専務理事が代読し、「ここから、日本の自動車産業の未来を築いていくきっかけとしていただければ幸いです」と述べた。

最後に、東京自動車三十年会世話人代表の中谷良平・安全自動車会長が「自動車は今や第2ステージにきています。関連業界が力を合わせてますます輝く時代を築いていきたい」と挨拶した＝写真＝。

〔東京都自動車会議所〕



「自動車なんでも相談」開催

運転免許返納など高齢化に関する相談目立つ

神奈川県自動車会議所

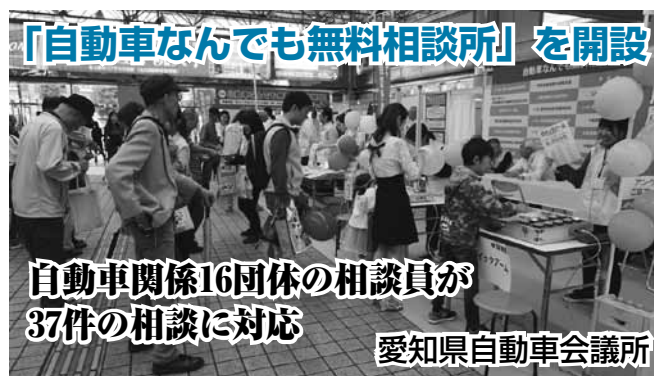
神 奈川県自動車会議所は11月7日、8日の両日、横浜駅東口の新都市プラザで「自動車なんでも相談所」を開設し、自動車全般について無料で相談に応じる「自動車なんでも相談」を実施した。

この「自動車なんでも相談」は、関東運輸局神奈川運輸支局、神奈川県、横浜市消費者協会の後援を受け、昭和56年から継続して実施しているもので、今回で42回目となり、関東運輸局神奈川運輸支局、神奈川県くらし安全防災局、神奈川県自動車税管理事務所をはじめ関係団体から派遣された相談員（延べ24名）と弁護士（2日目の午後のみ）が対応に当たった。

今年の相談件数は、昨年と比べて22件多い79件（う

ち電話相談は9件）。内訳は、登録手続き関係が26件、道交法関係が18件、車検・整備関係が11件、車の売買関係が4件、事故・保険関係が4件、自動車税関係が4件、輸送関係が2件、その他が10件となり、道交法関係における運転免許証自主返納の際の運転経歴証明書の交付申請の方法や更新時の高齢者講習、高齢のため親の車を子に名義変更する方法に係る相談など高齢化に関する相談が目立った。

〔神奈川県自動車会議所〕



自動車関係16団体の相談員が
37件の相談に対応

愛知県自動車会議所

愛 知県自動車会議所は10月18日、19日の2日間、名古屋市中区の金山総合駅コンコースにおいて、国や愛知県の後援を得て、今年度で14回目となる「自動車なんでも無料相談所」を開設した。会場では愛知運輸支局等の行政機関や自動車関係16団体から派遣された相談員が、37件の相談を受けた。相談内容は運転免許・違反関係、点検・整備関係に関するものが上位を占めた。また、来場した約830名の方にアンケート調査へのご協力もいただいた。

会場には、交通安全ミニイベントとして、日本自動車会議所の協力を得て、敏捷性を測定する「クイックアーム」を設置したほか、自動車事故対策機構の運転適性診断に使用する「PC視覚診断」の体験コーナー、来場者の顔写真を撮影して作成する「顔写真入り缶バッジ」のプレゼントコーナー等を設け、いずれも好評だった。

そのほかにも、電動で回転する円筒形の展示パネル「世界のナンバープレート」や、東京オリンピック・パラリンピック特別仕様ナンバープレート、豊田・春日井の地方版図柄入りナンバープレートの見本を展示した。さらに、中部運輸局により、観光プロジェクト「昇龍道」や、「サボカー」のブースが設けられ、広報活動が行われた。また、愛知県による交通安全の啓発活動が行われた。

〔愛知県自動車会議所〕